

静岡県富士郡芝川町

窪 C 遺跡

—宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

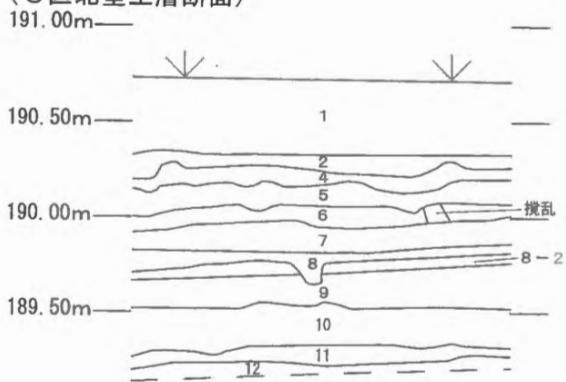
2004年

芝川町教育委員会

以下の注記を追加します。

図5 A～D区 基本土層断面

(C区北壁土層断面)



第8-2層 暗褐色土 大沢スコリア粒を少し多く含む。
縮まりやや強く、粘性やや弱い。

例 言

1. 本報告書は、静岡県富士郡芝川町大鹿窪字窪地内に計画された宅地造成事業地内に所在する窪C遺跡の発掘調査報告書である。
2. 窪C遺跡の発掘調査は、芝川町の委託を受け、みらい課が事業担当部局、芝川町教育委員会が調査主体者となり、株式会社東日文化財調査室が調査を担当した。
3. 発掘調査は以下の体制で実施した。

・事業主体者	芝川町	町長	白井進
・事業担当部局	みらい課	課長	佐野一芳
	同	課長補佐	佐野文紀
・調査主体者	教育委員会	教育長	佐野實
・調査事務局	同	事務局長	遠藤明男
	同	局長補佐	政野勝樹
	同	担当	保竹貴幸
・指導機関	静岡県教育委員会文化課	課長	山下峰雄
	同	担当	中川律子
・調査機関	株式会社東日文化財調査室	室長	小金澤保雄
	同	調査員	小谷亮二
4. 現地調査は、平成15年12月9日～12月26日にかけて実施した。出土遺物の洗浄、注記等の整理作業、報告書の作成は、現地調査終了後の平成16年1月5日～平成16年3月22日まで実施した。
5. 整理作業は小金澤・小谷が中心となり、小金澤彩可・井倉洋子・渡辺 恩・長谷川順子の協力を得て行った。
6. 報告書の編集は、小金澤が担当し、原稿の執筆は、保竹・小谷・小金澤が担当し文末に（ ）で名を記した。
7. 発掘調査および遺物整理において、次の方々にご指導とご助言を賜った。感謝の意を表したい。
(順不同、敬称略)
池谷信之・植松章八・渡井英誉
8. 本調査に係わる発掘調査の記録(図面・写真)及び遺物は芝川町教育委員会にて保管している。
9. 現地調査参加者は次のとおりである。(順不同、敬称略)
[調査員] 小谷亮二
[測量作業員] 小山進
[作業員] 齊藤之弘 澁谷政雄 田中力 田中稔 渡辺敏雄

目 次

例言

1	はじめに	1
	(1) 調査に至る経緯	1
2	遺跡の位置と環境	1
	(1) 地理的環境	1
	(2) 歴史的環境	1
3	調査の概要	4
	(1) 調査の方法	4
	(2) 調査の経過	4
	(3) 層序	4
4	調査の結果	9
	(1) 遺構	9
	(2) 遺物	25
5	まとめ	25
	引用・参考文献	26
	報告書抄録	27

写真図版

挿図目次

図1	調査地点	2
図2	調査区の位置	3
図3	周辺の遺跡分布図	5
図4	調査対象区域	6
図5	A～D区 基本土層断面	8
図6	縄文時代A・B区 遺構分布図	10
図7	縄文時代C区 遺構分布図	11
図8	縄文時代B区 1号集石遺構 平・断面図	11
図9	縄文時代A区 土坑 平・断面図	12
図10	縄文時代A区 1号柱穴列 平・断面図	13
図11	縄文時代A区 2号柱穴列 平・断面図	14
図12	縄文時代A区 ピット 平・断面図	14
図13	縄文時代B区 3・4号柱穴列 平・断面図	15
図14	縄文時代C区 5号柱穴列 平・断面図	16
図15	縄文時代C区 ピット 平・断面図	16
図16	弥生時代以降A・D区 遺構分布図	17

図17	弥生時代以降D区	土坑 平・断面図	18
図18	弥生時代以降A区	ピット 平・断面図	18
図19	縄文時代A・B区	遺物出土分布図	19
図20	縄文時代A区	石器実測図(1)	21
図21	縄文時代A区	石器実測図(2)	22
図22	縄文時代B区	石器実測図	22

挿表目次

表1	周辺の遺跡地名表	5
表2	縄文時代A区 土坑計測表	23
表3	縄文時代A・B・C区 ピット・柱穴列計測表	23
表4	弥生時代以降D区 土坑計測表	24
表5	弥生時代以降A区 ピット計測表	24
表6	縄文時代 石器観察表	24

写真図版

写真1	A区 北壁 土層断面
写真2	B区 西壁 土層断面
写真3	C区 北壁 土層断面
写真4	D区 北壁 土層断面
写真5	B区 縄文時代 1号集石遺構
写真6	B区 縄文時代 下層の礫層検出状況
写真7	A区 縄文時代 遺物出土状況・土坑検出状況
写真8	A区 縄文時代 2号ピット土層断面
写真9	A区 縄文時代 5号ピット土層断面
写真10	A区 縄文時代 土坑完掘状況
写真11	B区 縄文時代 遺構検出状況
写真12	C区 縄文時代 遺構検出状況
写真13	D区 弥生時代以降 遺構検出状況
写真14	A区 弥生時代以降 遺構検出状況
写真15	A区 完掘状況
写真16	B区 完掘状況
写真17	C区 完掘状況
写真18	D区 完掘状況
写真19	A区 出土遺物
写真20	B区 出土遺物

1 はじめに

(1) 調査に至る経緯

静岡県富士郡芝川町は、富士山の南西側に位置し、山梨県に接している山あいの町である。町の名前の由来ともなった町の中心部を南下する芝川沿いには、縄文時代を中心とする遺跡が数多く発見されている。

町の北部に位置する柚野地区は、北東方向に富士山が眺められる自然が豊かな土地である。この地に町営宅地造成事業の計画が立ち上がり、平成14年11月から12月にかけて行われた試掘調査で、旧石器時代から弥生時代以降にかけての遺跡が発見され、字名から窪C遺跡と名付けられた。

その後、事業者である芝川町みらい課、芝川町教育委員会、静岡県教育委員会文化課で、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。そして、設計案をもとに道路部分について平成15年11月に確認調査を行い、本発掘調査範囲約300㎡を確定した。

調査は、芝川町教育委員会が調査主体となり、芝川町から委託を受けた埋蔵文化財発掘調査の実績のある民間の専門業者が行うこととなった。

窪C遺跡の試掘・確認調査では、芝川町では数少ない旧石器時代と思われる遺構が確認されており、今回の調査で確実な遺構・遺物が発見されることが期待された。

(保竹)

2 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

窪C遺跡は静岡県富士郡芝川町大鹿窪字窪、芝川町北部の芝川左岸に位置する。遺跡の西側は富士川の支流である芝川が南に向かって流下しており、遺跡の位置する北側、芝川にかかる柚野橋あたりでは、鷗穴（芝川の急流が数万年の歳月をかけて創造した奇岩の連なり。数々の穴は小石が岩盤上でくるくる回り、えぐられたもの）や、湧水も確認することができ、芝川町の観光スポットとなっている。

芝川町の地形は、富士川の支流稲子川、芝川、稲瀬川流域の山地と丘陵からなっている。北部の新第3紀礫岩質からなる天子山地、東部の古富士泥流堆積物が基盤となる羽鮒から西山に見られる羽鮒丘陵、天子山地と羽鮒丘陵に挟まれた芝川谷に分類される。また、北東方向に聳える富士山の影響も大きく受けており、窪C遺跡南東に位置している大鹿窪遺跡では約10,000年前から活動を開始した新富士火山の溶岩流が確認されており、本遺跡においても約3,000年前の大沢火砕流の堆積が確認されている。

(2) 歴史的環境

静岡県遺跡地図によれば、遺跡・史跡として44箇所が登録されているが、40箇所が縄文時代に係わる遺跡として登録されている。芝川町において発掘調査が行なわれた例は少ないが、戦前に発刊された『静岡県史 第1巻』（昭和4年発行）には既に「芝富村楠金で、鉢形土器の完形品、石鏃・打製石斧・磨製石斧・石匙、小学校付近で石鏃、大久保で石棒、柚野村の猫沢では厚手の壺形土器、石棒の破片、上柚野のカミヤ沢で石棒、下柚野の辻で縄文土器、黒曜石片、オマゴメから有頭石棒が確認された」との記述が見られる。さらに、『静岡県史 第2巻』では、内房村で石槍が出土したことが報告されている。戦後になって、昭和27・28年頃から昭和40年代までの踏査によって多くの遺跡が確認、この地域の考古学的研究が体系的に進展した。

本遺跡周辺の主な遺跡としては、縄文時代草創期の大鹿窪遺跡、縄文時代中期の森林遺跡、縄文時代～古墳時代の辻遺跡、縄文時代早期の東原A遺跡、縄文時代中期の東原B遺跡が位置している。以下、遺跡ごと記述する。

平成13～14年に調査が行われた大鹿窪遺跡では、縄文時代草創期に属する竪穴状遺構11基、土坑10基、配石遺構5基、集石遺構11基、縄文時代早期の配石遺構3基が確認された。

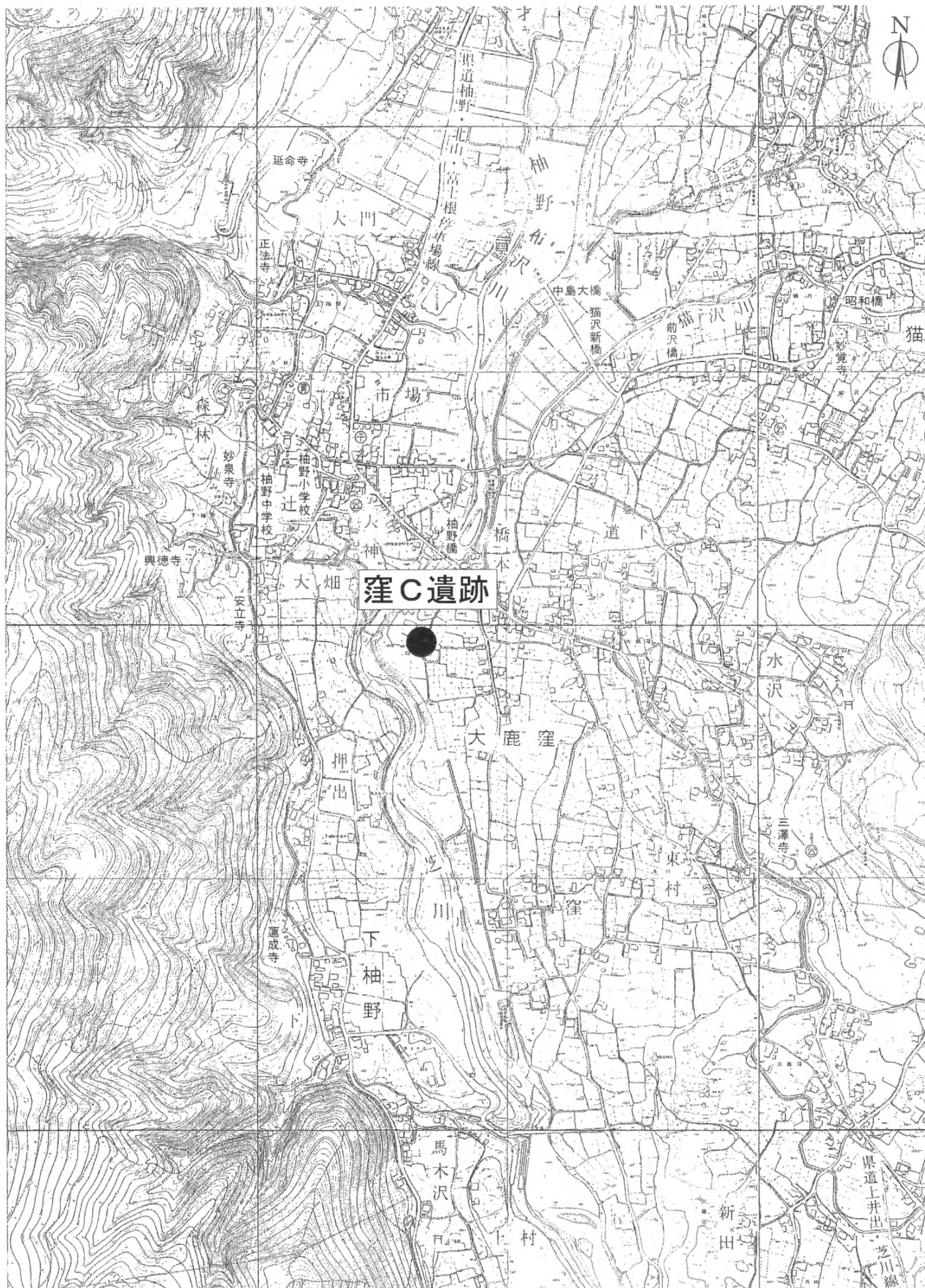


図1 調査地点



図2 調査区の位置

森林遺跡は、縄文時代中期末葉の加曽利E式土器、打製石斧・石鏃・石皿等の石器類が確認されている。辻遺跡は、縄文時代中期の勝坂式・加曽利E式・堀之内式土器、打製石斧・磨製石斧の石器類が出土している。

東原A遺跡は、縄文時代早期の押型文土器、東原B遺跡は縄文時代中期の勝坂式・加曽利E式の土器が出土している。

上述した県史に見られる柚野村の猫沢は猫沢遺跡にあたり、厚手の土器は、縄文時代中期の加曽利E式に当ると思われ、後期の堀之内式土器、打製石斧・石匙・石棒等の石器類が出土している。

3 調査の概要

(1) 調査の方法

現地調査は平成15年12月9日から12月26日まで行った。

表土を重機により除去した後、作業員を導入して遺構および遺物の確認作業を実施した。

また、遺構・遺物の実測作業には、『遺跡入力支援システム（トータルステーションシステム）』を導入して遺構および遺物の記録作業の省力化を図った。写真による記録は、ブローニーサイズ原画白黒・35mmサイズ原画白黒・リバーサル撮影によった。

(2) 調査の経過

調査は以下のように行った。

12月9～11日

重機による掘削を行う。A区、D区では大沢スコリア層に掘り込まれている土坑、ピットを確認した。重機の掘削が終了した調査区から作業員による精査を行う。精査の結果、B・C区では下層でピット状のプランを確認する。

12月12～15日

A・B区の精査およびD区の土坑の掘り下げ、実測作業を行う。A区では磨石が出土した。B区では、集石と思われる礫の集中域が確認された。

12月16～19日

A・B・C区の精査作業を行う。D区は16日に完掘した。A区で土坑状のプランが、B・C区でピット状のプランが確認された。遺構の実測作業を行う。

12月22～26日

A・B・C区の精査および遺構の掘り下げ、遺構の土層断面の実測、測量作業を行う。A区とB区では下層の遺構・遺物の有無を確認するためトレンチを設定して掘り下げた。遺構・遺物は確認されなかった。A～C区は完掘した。機材の撤収およびトイレの搬出作業を行った。

(3) 層序

基本層序は、まず、大沢スコリア層が鍵層となり、上層および下層で大きく文化層が異なる。本遺跡においても基本的には大沢スコリア層が確認されるものの、B区では確認されない。なお、確認調査の結果から、D区は大沢スコリア層より下層の調査を今回は行わなかったため、大沢スコリア層までの層序となる。

A区とC区はほぼ同様の堆積状況を示しており、B区は大沢スコリア層を含む上層は確認されず、床土の下が第9層になるものの、第9層以下はほぼ同じ堆積状況を示している。D区は、大沢スコリア層までの層序であるが、3面の耕作面が確認された。

A～C区は若干異なっているが、基本層序は変わらないため、堆積状況の良いA区の北壁を標準土層として示す。なお、図中の標高はA区の標高である。また、D区の層名は他の調査区とは一致しない。

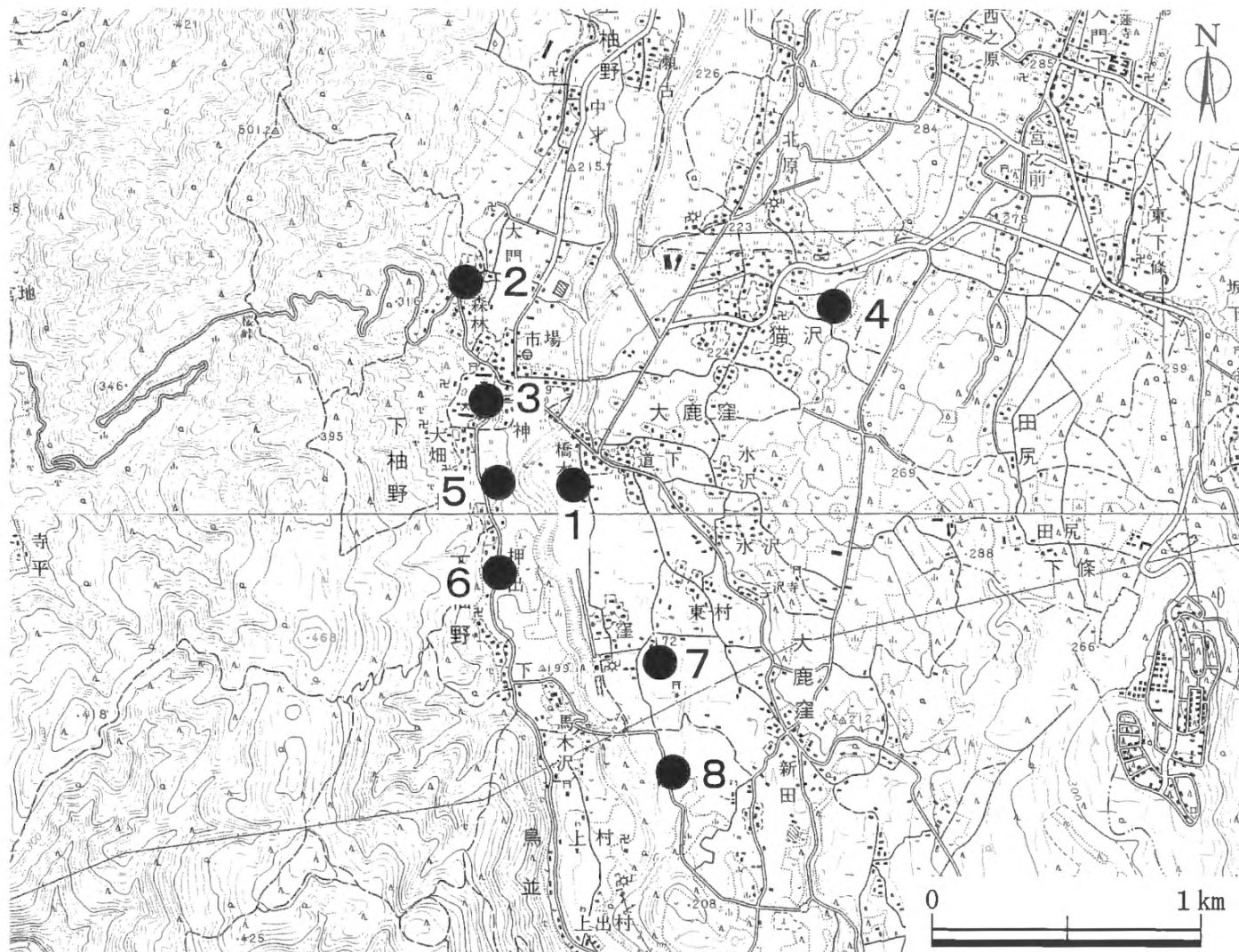


図3 周辺の遺跡分布図

NO.	遺跡名	時代	種別	所在地	遺構・遺物
1	窪C遺跡	旧石器・縄文・弥生時代以降	集落跡	大鹿窪字窪	集石遺構・土坑・ピット・磨石
2	森林遺跡	縄文(中)	散布地	上柚野字森林	縄文土器・打製石斧・石鏃・石皿・磨石
3	辻遺跡	縄文・弥生・古墳	散布地	下柚野字辻・天神	縄文土器・土師器・須恵器・打製石斧・磨製石斧
4	猫沢遺跡	縄文(中・後)	散布地	猫沢字上ヶ谷戸	縄文土器・打製石斧・石匙・石棒
5	東原A遺跡	縄文(早)	散布地	下柚野字東原	縄文土器
6	東原B遺跡	縄文(中)	集落跡	下柚野字東原	縄文土器
7	大鹿窪遺跡	縄文(草創)	散布地	大鹿窪字新田、東村	竪穴状遺構・土坑・配石遺構・集石遺構・配石遺構・縄文土器・尖頭器・石器
8	窪B遺跡	縄文	散布地	大鹿窪字新田	集石遺構・土坑・ピット・磨石

(1988、静岡県文化財地図)

表1 周辺の遺跡地名表

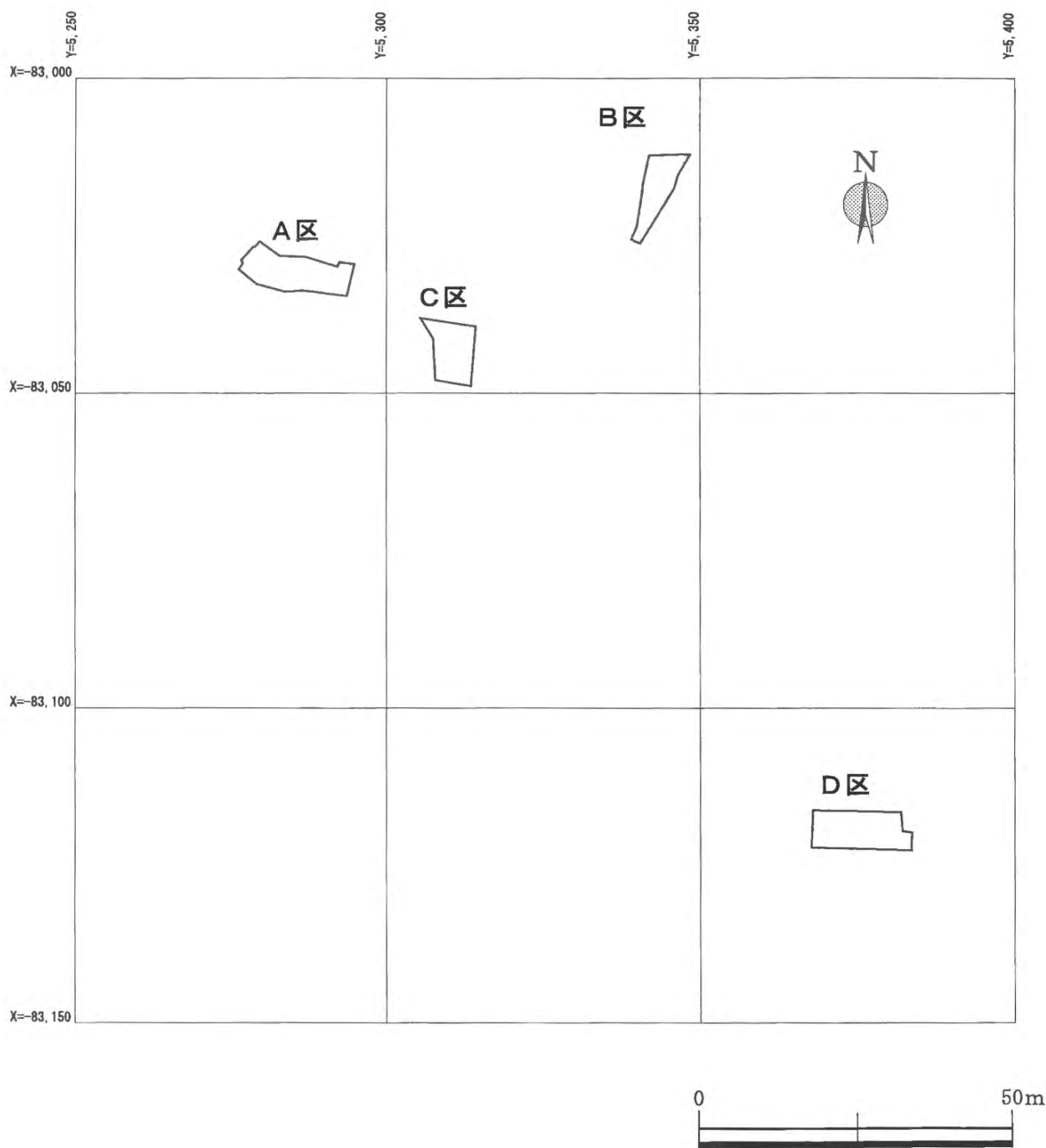


図4 調査対象区域

A～C区

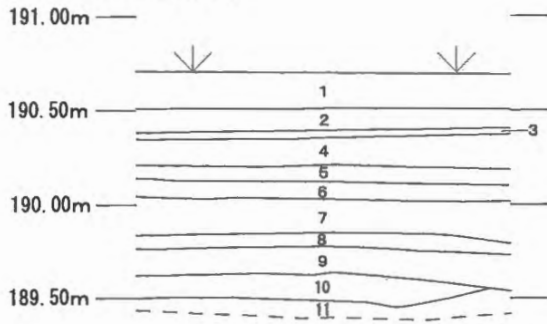
第1層	灰褐色土	表土で耕作土。締まり強く、粘性やや弱い。
第2層	暗褐色土	オレンジ粒を多く含む。締まり強く、粘性やや弱い。
第3層	灰褐色土	耕作土の床土。鉄分を多く含む。締まり強く、粘性やや弱い。
第4層	暗褐色土	オレンジ粒、白色粒を多く含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
第5層	暗褐色土	大沢スコリア粒を少し含む。締まり・粘性共にやや強い
第6層	暗褐色土	大沢スコリア粒を多く含む。締まり強く、粘性やや弱い。
第7層	大沢スコリア層	締まり強く、粘性弱い。
第8層	暗褐色土	大沢スコリア粒を多く含む。締まり強く、粘性弱い。
第9層	暗褐色土	オレンジスコリアを多く含む。
第10層	褐色土	締まり・粘性共に強い。
第11層	明褐色土	締まり・粘性共に強い。
第12層	礫層	基盤層

D区

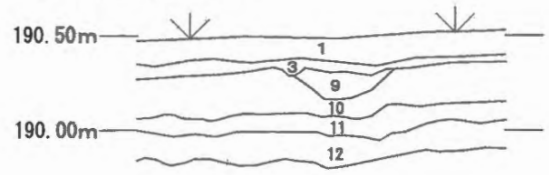
第1層	灰褐色土	耕作土。第1耕作面。締まり強く、粘性やや強い。
第2層	灰褐色土	耕作土床土。鉄分を多く含む。締まり強く、粘性やや強い。
第3層	灰褐色土	オレンジ・白色粒を多く含む。第2耕作面。締まり強く、粘性やや弱い。
第4層	灰褐色土	床土。鉄分を多く含む。締まり強く、粘性やや強い。
第5層	褐色土	オレンジ、白色粒を少し含む。締まり強く、粘性やや強い。
第6層	暗褐色土	オレンジ粒を少し、白色粒を微量含む。締まり強く、粘性やや強い。第3耕作面。
第7層	褐色土	オレンジ粒を少し、白色粒を微量含む。締まり強く、粘性やや強い。
第8層	暗褐色土	オレンジ粒を少し、白色粒を微量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
第9層	暗褐色土	オレンジ・白色粒を微量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
第10層	黒色土	オレンジ・白色粒を微量含む。締まり・粘性共にやや強い。
第11層	黒色土	白色粒を微量含む。締まり・粘性共にやや強い。
第12層	暗灰褐色土	大沢スコリアを粒状、ブロック状に少し含む。締まり強く、粘性やや弱い。
(第13層	大沢スコリア層)	

(小谷)

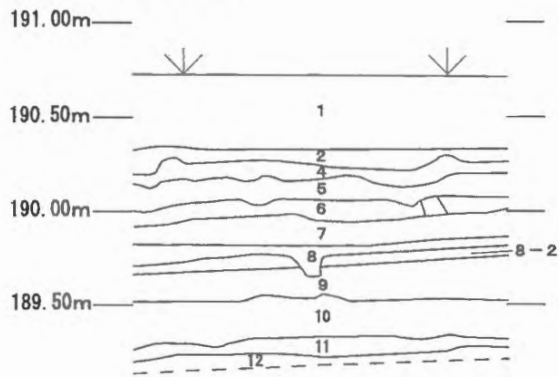
(A区北壁土层断面)



(B区北壁土层断面)



(C区北壁土层断面)



(D区北壁土层断面)

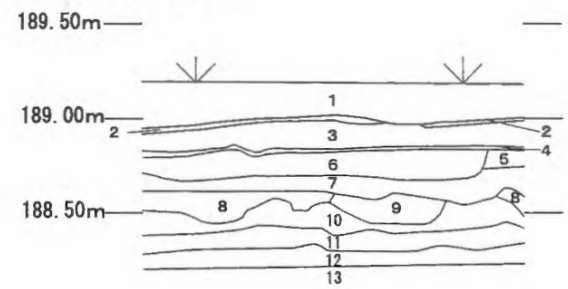


图5 A~D区 基本土层断面

4 調査の結果

(1) 遺構

今回の調査の結果、縄文時代の集石遺構1基（B区）、土坑6基（A区）、柱穴列5基（A・B・C区）、ピット3基（A・C区）と弥生時代以降に属する土坑5基（D区）、ピット1基（A区）が検出された。遺構の時期を明確にすることができる遺物（土器・石器）がなく時期の特定は難しいが、判断は周辺で行なわれた調査の結果等から層序的に確定した。

以下、時期ごと各遺構の概要を述べる。

縄文時代

集石遺構

1号集石遺構（図6・8）

B区の第11層明褐色土で検出された。B区の調査区南側でも同じ面から礫の集中域が確認されたが、周囲にサブトレンチを設定して下層を確認したところ、集石を構成する礫と下層の礫と連続しており、下層の礫の一部が上層に表出しているだけと判断した。しかし第1号集石遺構は、下層とは連続していない状態で検出され、他にも礫の集中域は認められず、B区とは異なる空間を構成していることから集石遺構と判断した。

中央部分では礫が円形を挺するように集石され、周辺の集石状況はやや粗となっている。構成する礫の石材は、安山岩、溶岩である。

（小谷）

土坑

A区（図6・9、表2）

計6基が検出され、内5基は調査区の西側で中央にやや狭い空間を挟んで平行に検出された。平面形態は大きく扁平の強い楕円形と不整形に分けられる。

1号土坑

平面形態は扁平の強い楕円形を呈し、テラスを有している。2号土坑に主軸方向が直行する。

2号土坑

1号土坑同様に平面形態は扁平の強い楕円形を呈し、テラスを有している。

3号土坑

平面形態は円形に近い不整形を呈し、テラスを有している。4・5号土坑とほぼ直線的に並んでいる。

4号土坑

平面形態は不整形を呈している。

5号土坑

平面形態は扁平の強い楕円形を呈している。

6号土坑

平面形態は扁平の強い楕円形を呈し、テラスを有している。

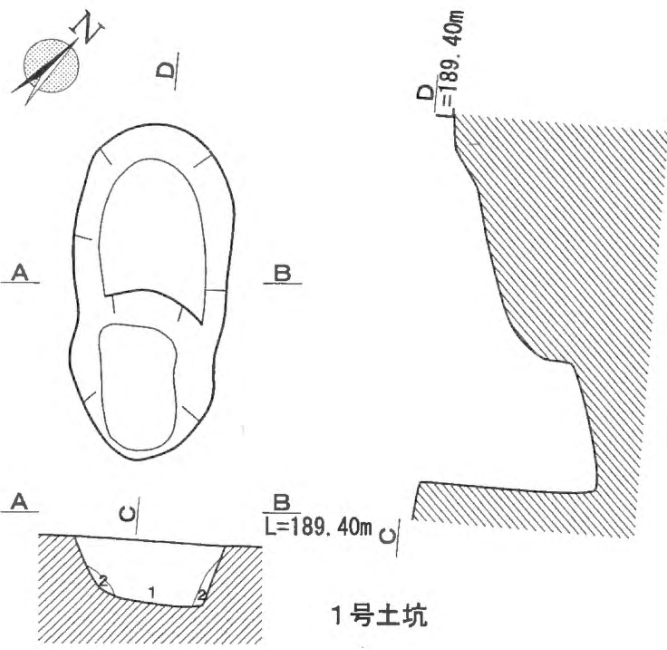
柱穴列

調査区のA区では西側で検出された。6・7号ピットも隣接していることから1号柱穴列を含めると、柱穴列に囲まれた空間＝住居状空間が想定される。

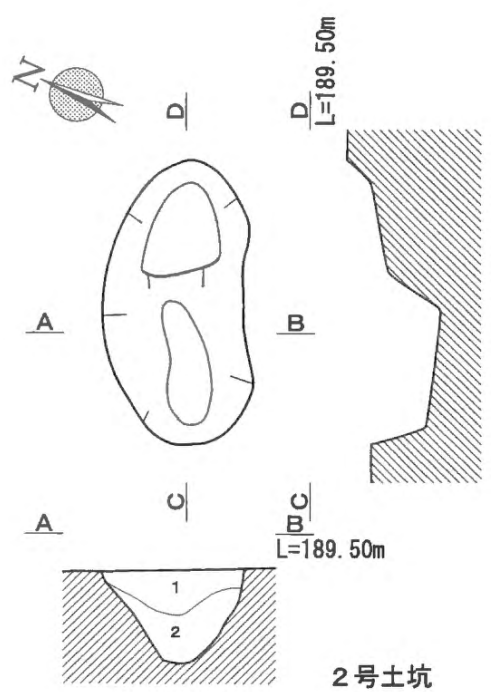
A区

1号柱穴列（図6・10、表3）

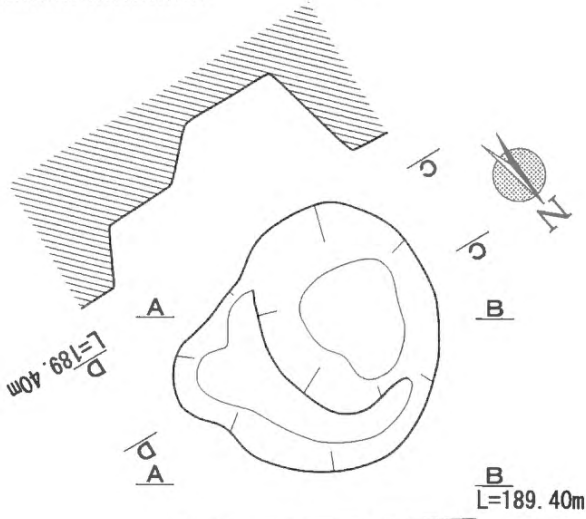
南北方向に1・2・3号ピットが列に並び、3号ピットを基点として東西方向にほぼ直角に3・4・5号ピットが列に並んでいる。



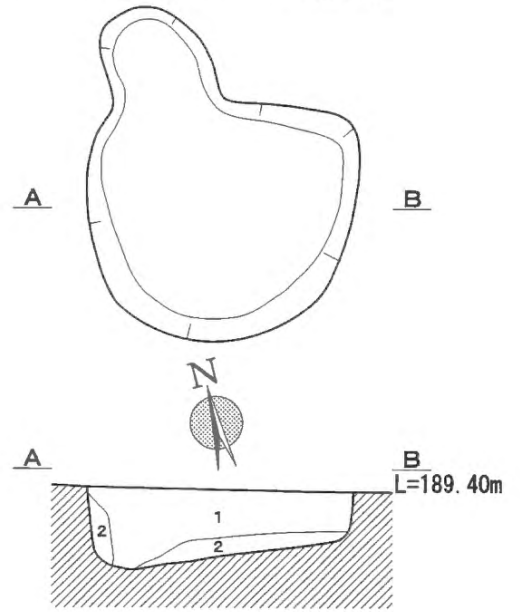
1号土坑



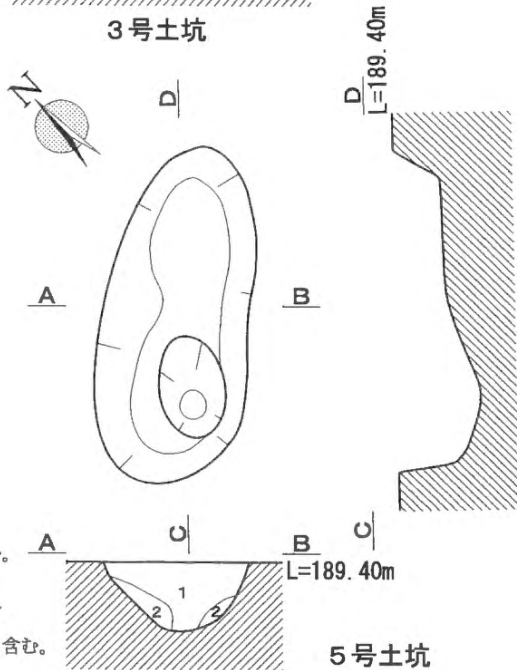
2号土坑



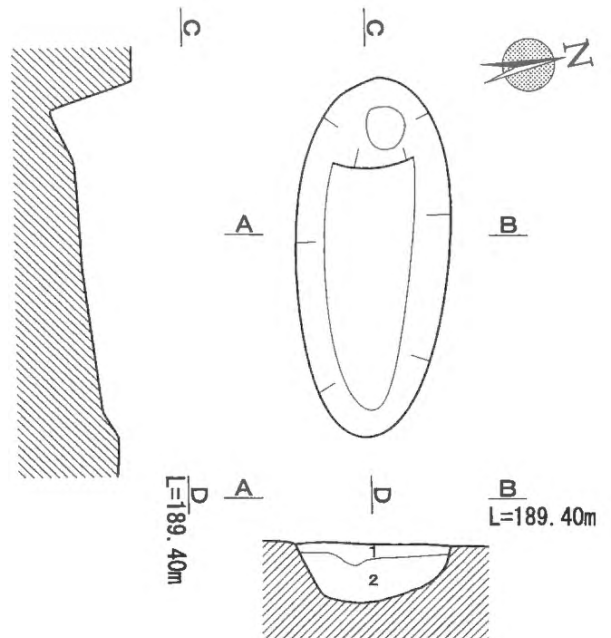
3号土坑



4号土坑



5号土坑



6号土坑

1層 暗褐色土 締まり・粘性共にやや強い。白色粒を多く含む。
 2層 暗褐色土 締まりは強く、粘性はやや弱い。褐色土をマール状に含む。白色粒をやや多く含む。



図9 縄文時代A区 土坑 平・断面図

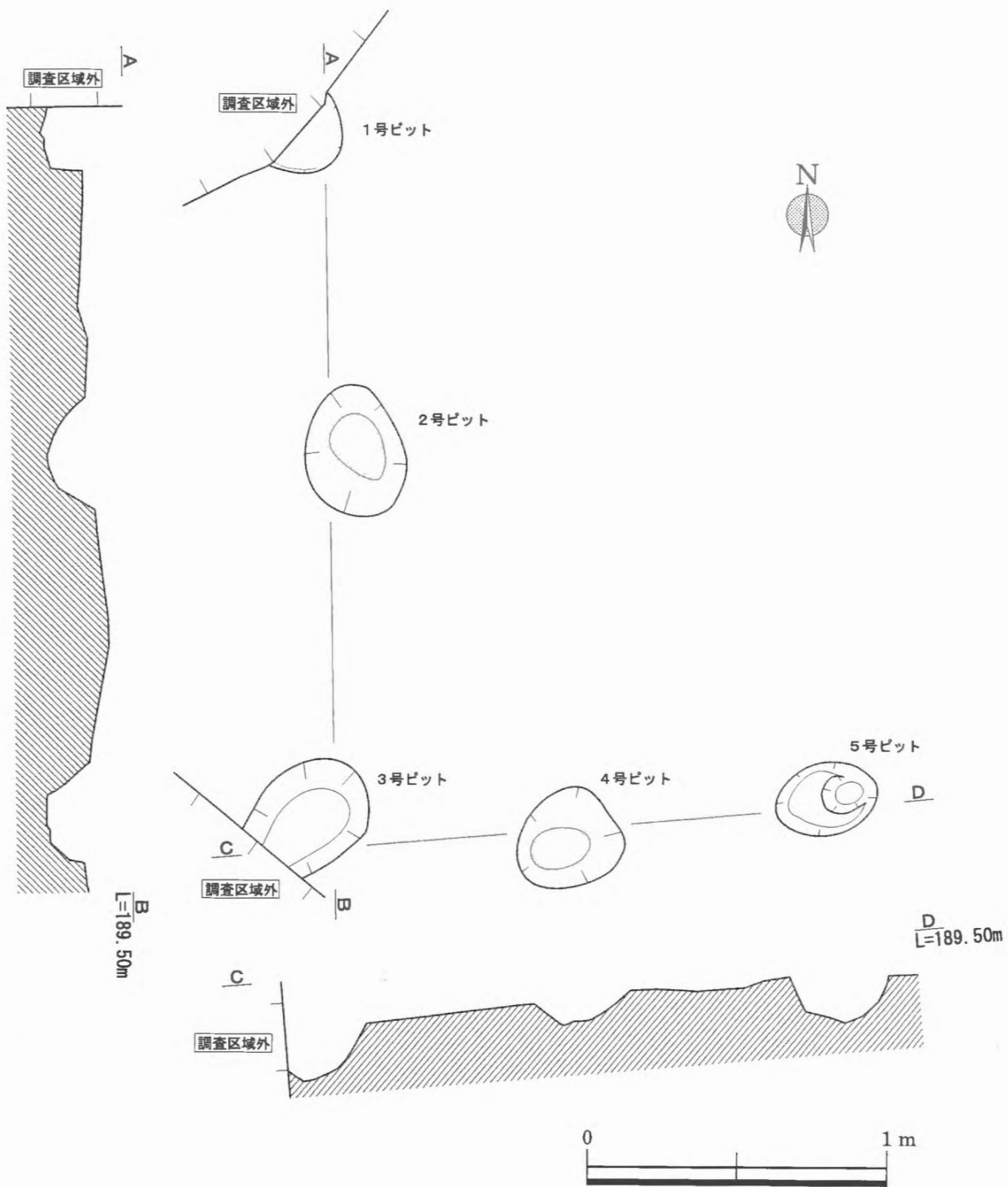


図10 縄文時代A区 1号柱穴列 平・断面図

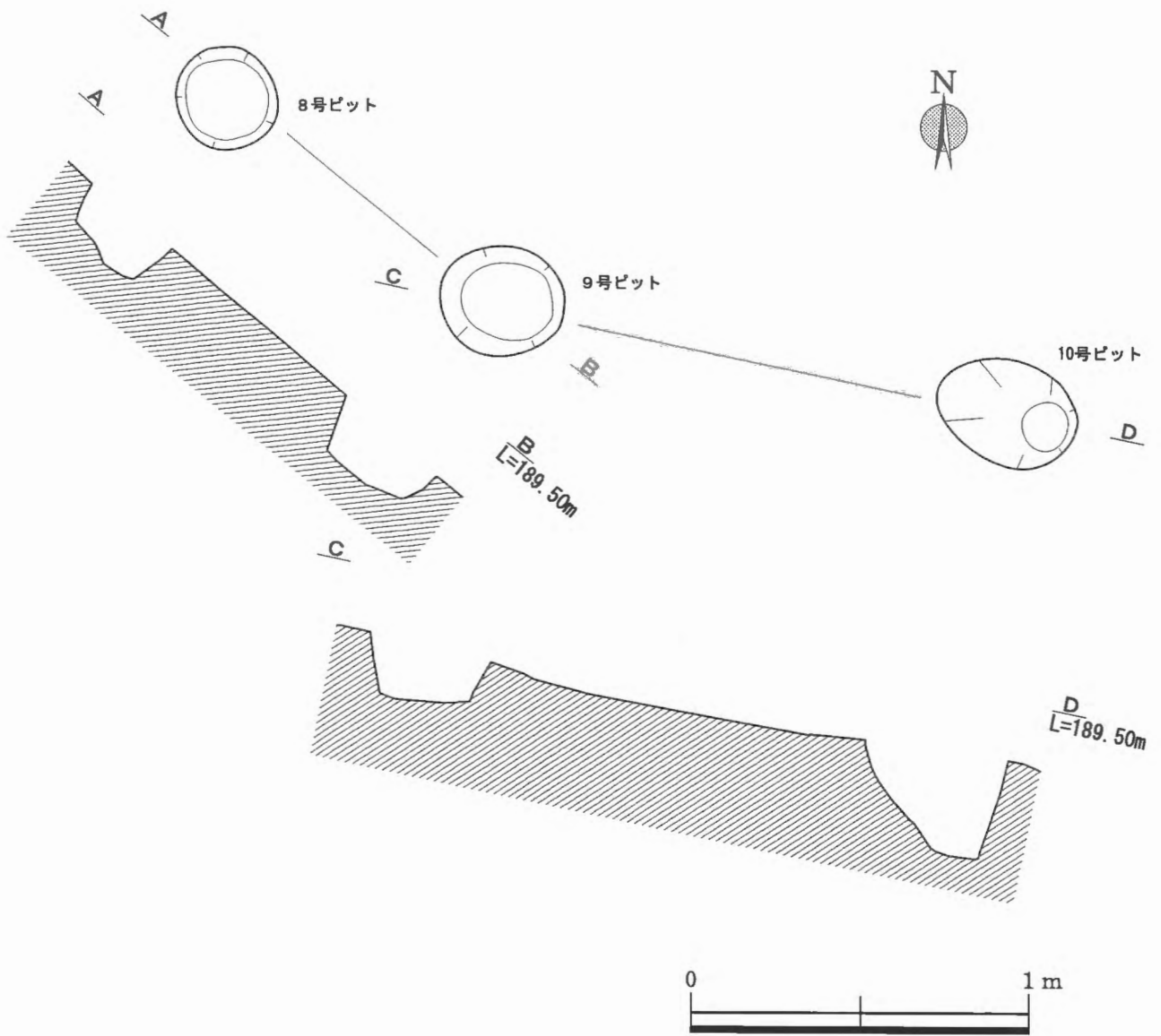
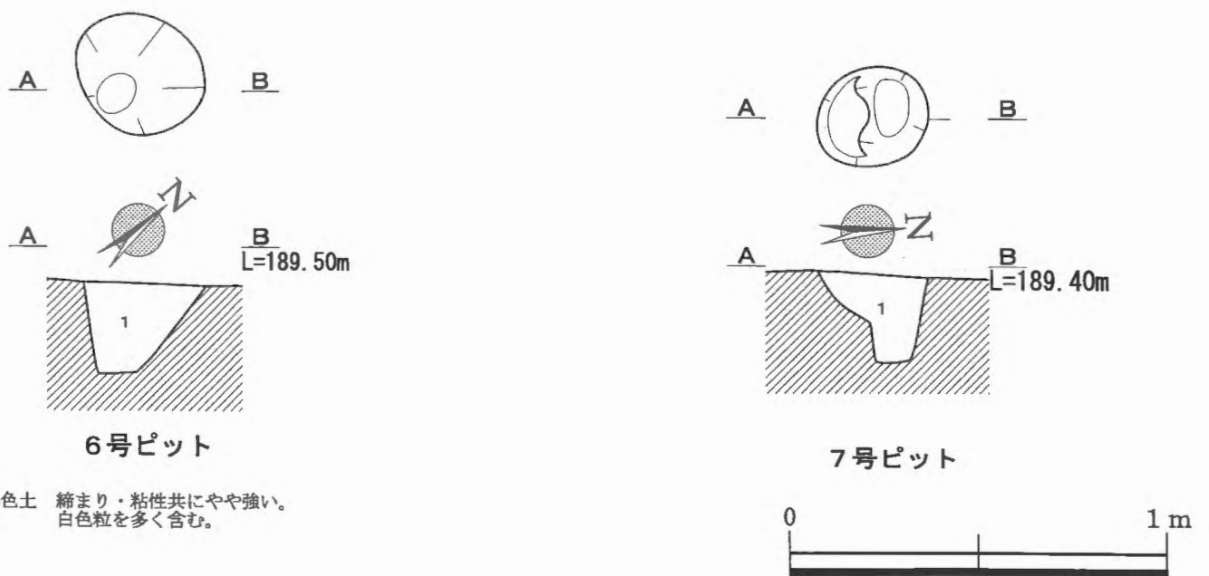


図11 縄文時代A区 2号柱穴列 平・断面図



1層 暗褐色土 縮まり・粘性共にやや強い。
白色粒を多く含む。

図12 縄文時代A区 ピット 平・断面図

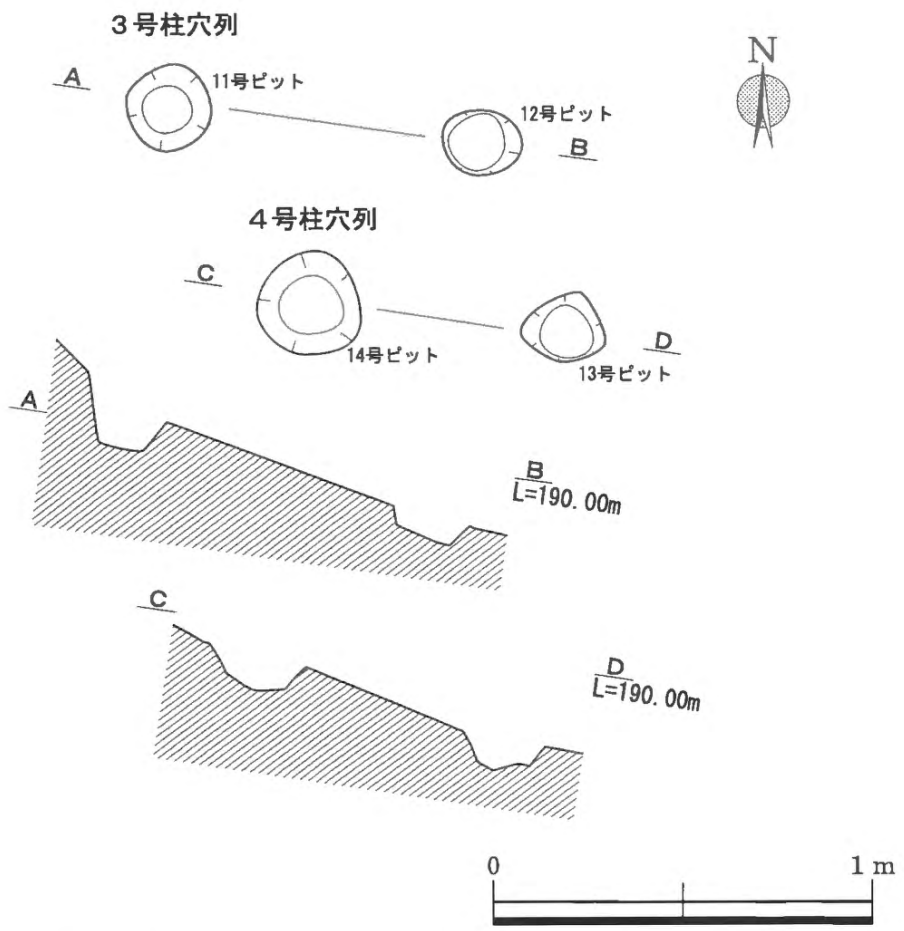


図13 縄文時代B区 3・4号柱穴列 平・断面図

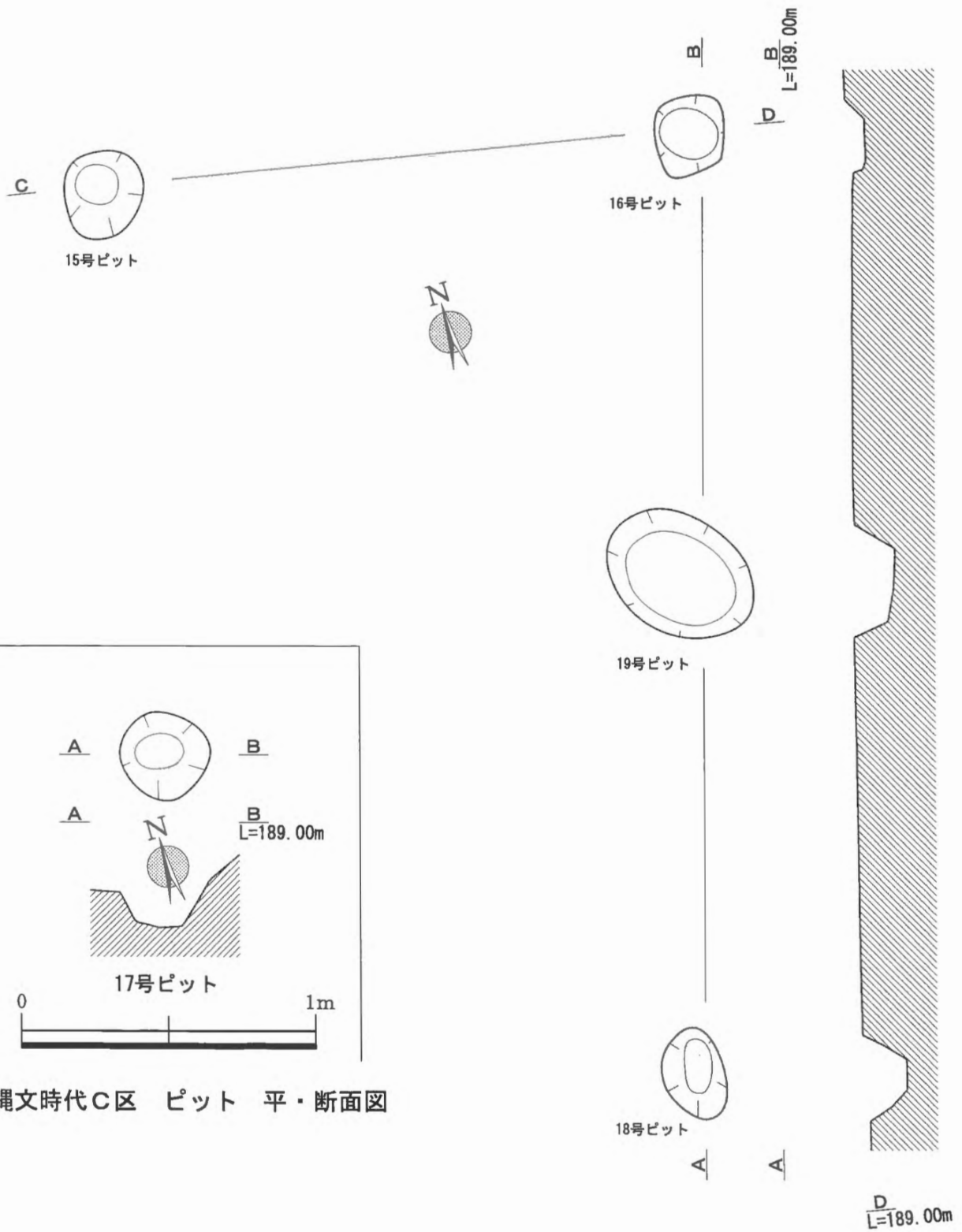


図15 縄文時代C区 ピット 平・断面図

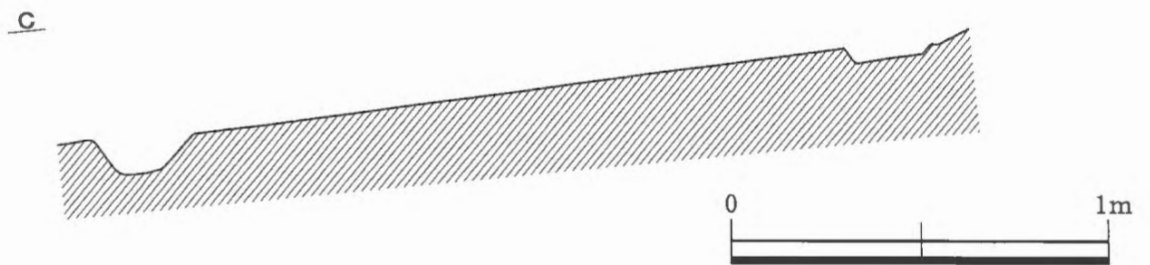


図14 縄文時代C区 5号柱穴列 平・断面図

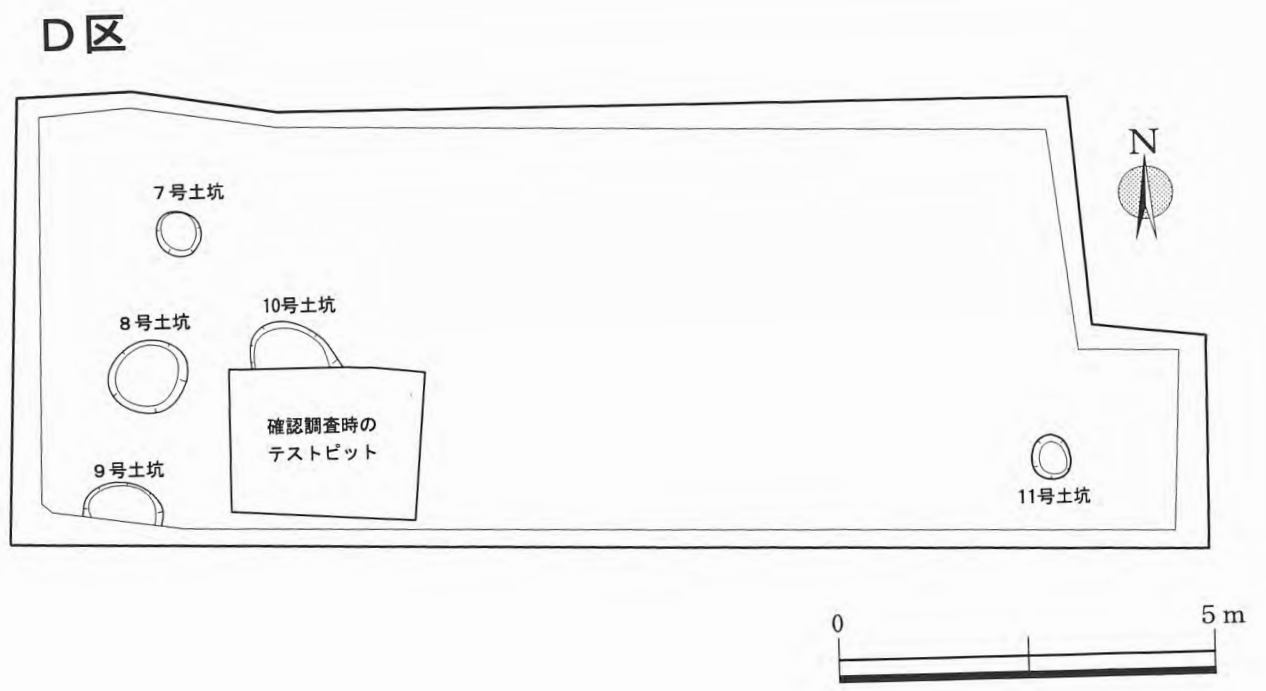
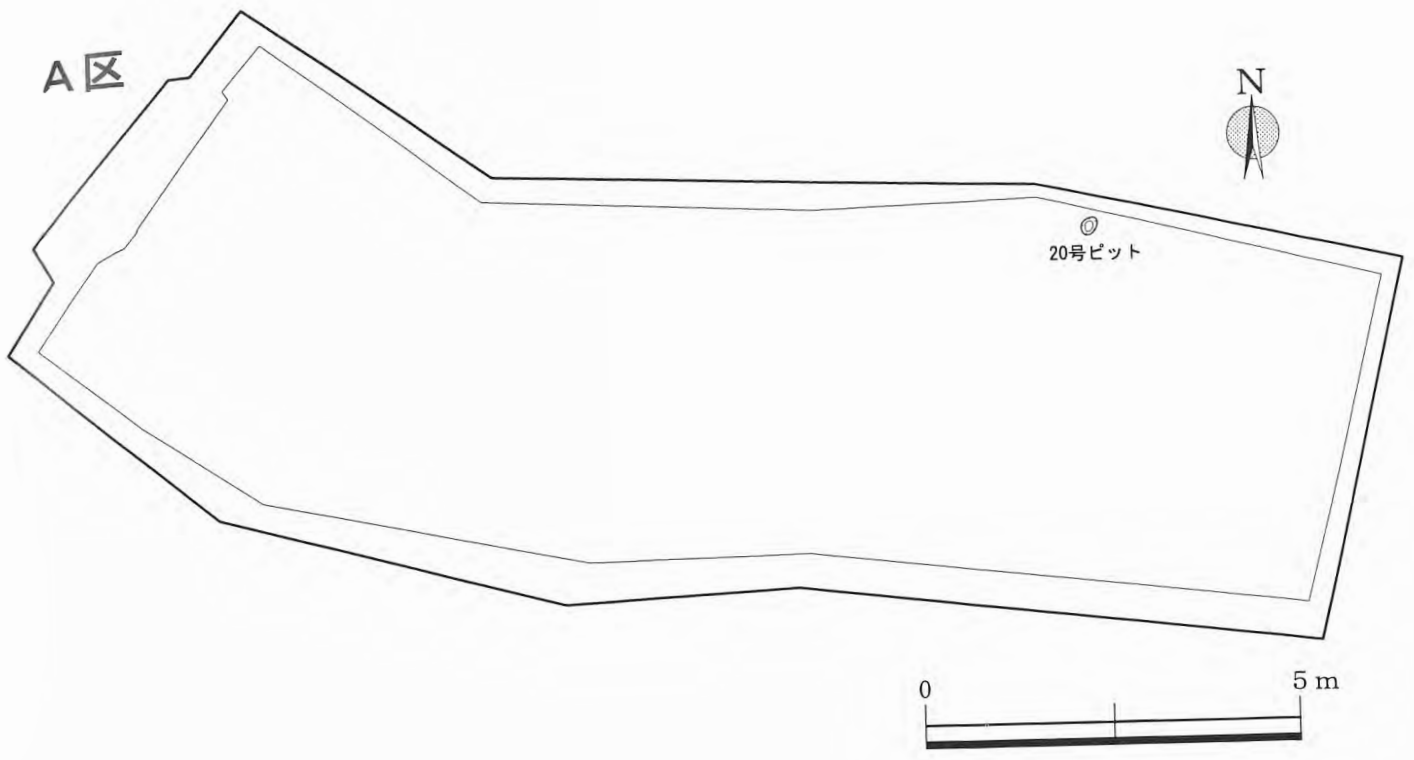
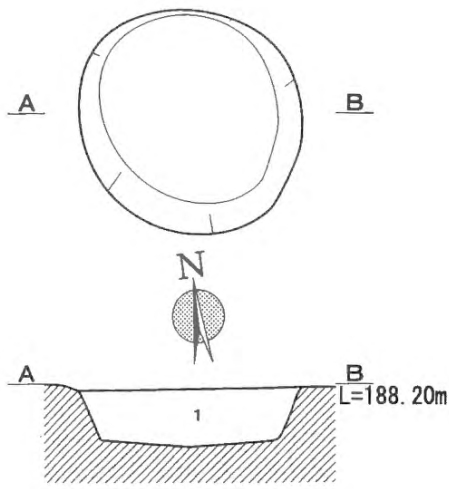
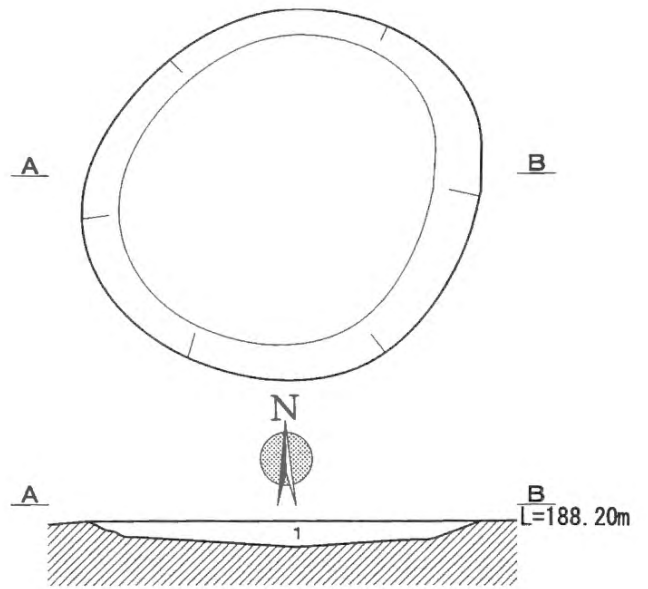


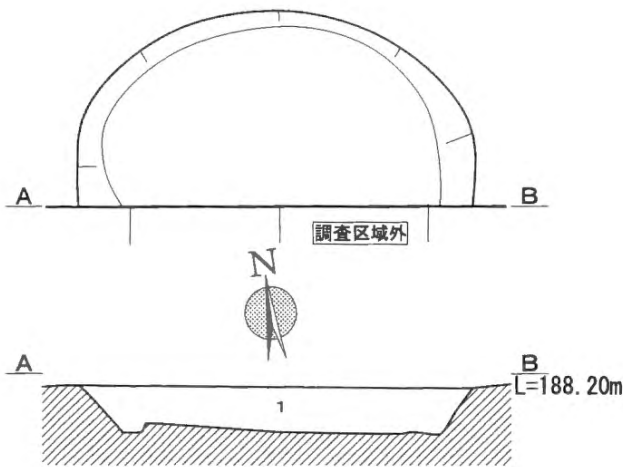
図16 弥生時代以降A・D区 遺構分布図



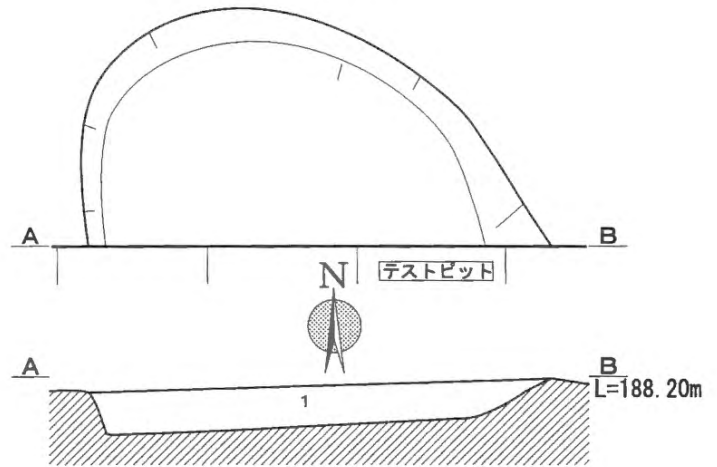
7号土坑



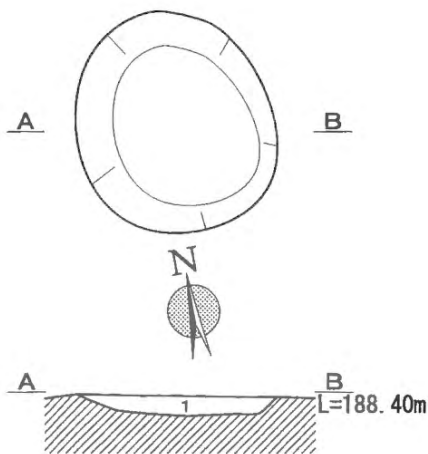
8号土坑



9号土坑



10号土坑

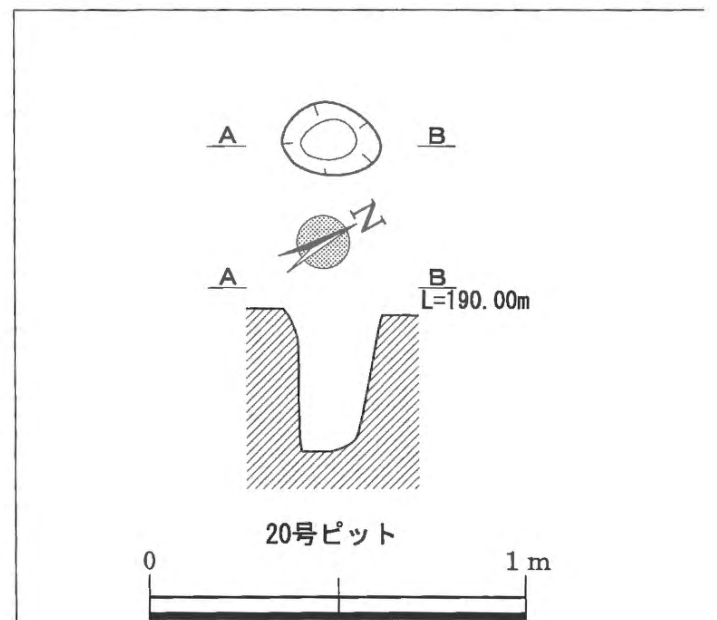


11号土坑

1層 暗褐色土 締まり・粘性共にやや強い。
白色粒を多く含む。



図17 弥生時代以降D区 土坑 平・断面図



20号ピット

図18 弥生時代以降
A区 ピット 平・断面図

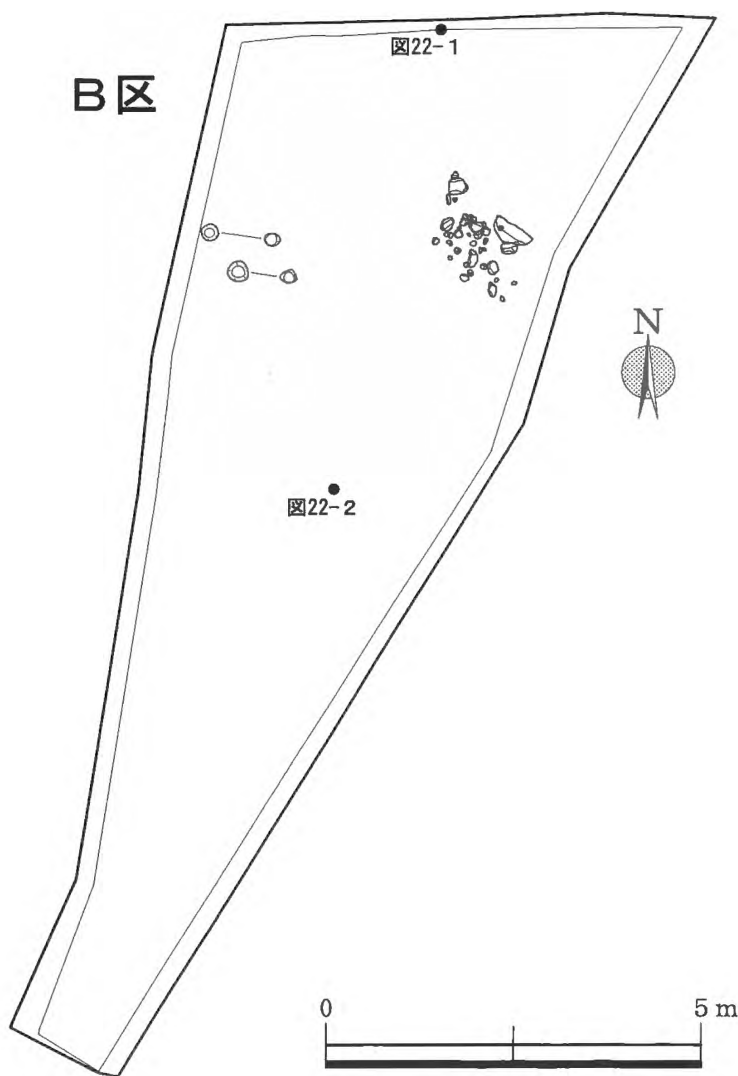
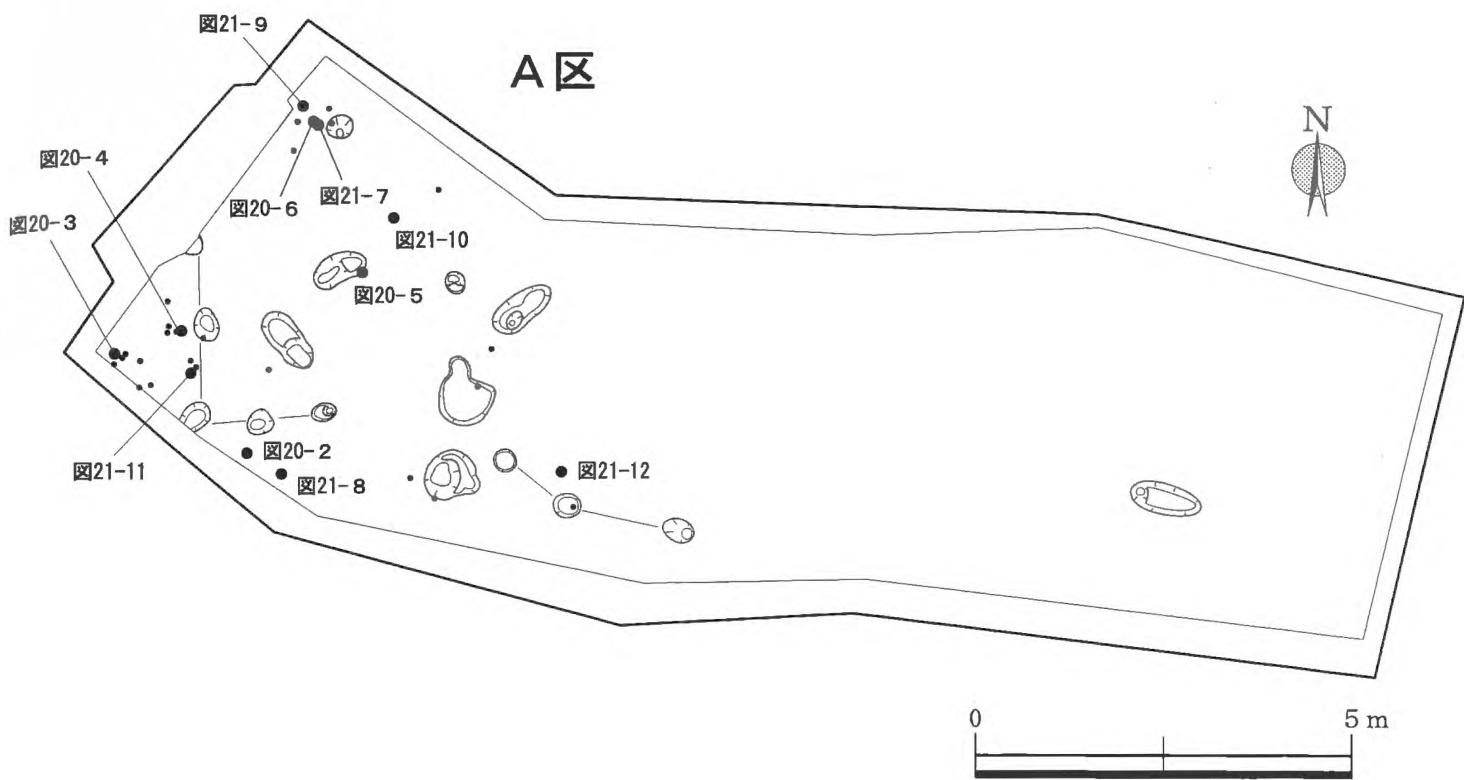


图19 縄文時代A・B区 遺物出土分布図

柱間は1・2・3号ピットが2間で約2.3m、3・4・5号ピットが2間で約1.8mを測る。

2号柱穴列 (図6・11、表3)

8・9・10号ピットからなり、柱間は8・9号ピット間で約1.0m、柱間は9・10号ピット間で約1.6mを測る。

B区

調査区の北側、1号集石遺構に隣接して検出された。

3号柱穴列 (図6・13、表3)

11・12号ピットからなり、柱間は1間で約0.85mを測る。4号柱穴列とほぼ平行に構築されている。

4号柱穴列 (図6・13、表3)

13・14号ピットからなり、柱間は1間で約0.7mを測る。

C区

5号柱穴列 (図7・14、表3)

東西方向の15・16号ピットからほぼ南北方向の16・18・19号ピットが鍵形を呈して並んでいる。

柱間は15・16号ピットが1間で約2.0m、16・18・19号ピットが2間で約3.1mを測る。

ピット

A区

6・7号ピット (図6・12、表3)

6・7号ピットは調査区の西側で1号柱穴列に隣接して検出された。

C区

17号ピット (図7・15、表3)

調査区北側で5号柱穴列に隣接して検出されたことから、関連する可能性がある。

弥生時代以降

大沢スコリア層を遺構確認面として検出され、遺物を伴うことが稀なため時期が特定できないことが多くみられる。

土坑

これらの土坑は中世土坑と称せられるもので、平面形態がほぼ円形を呈し、覆土は1～2層で黒色～黒褐色であるものが大半を占めている。

D区 (図16・17、表5)

調査区の西側において4基、東側で1基が検出された。規模は径が1.0m以上と0.6m以下の大小2種類がある。

7号土坑

0.6m以下の小型の土坑である。

8号土坑

1.0m以上の大型の土坑である。

9号土坑

1.0m以上の大型の土坑である。

10号土坑

1.0m以上の大型の土坑である。

11号土坑

0.6m以下の小型の土坑である。

ピット

A区 (図16・18)

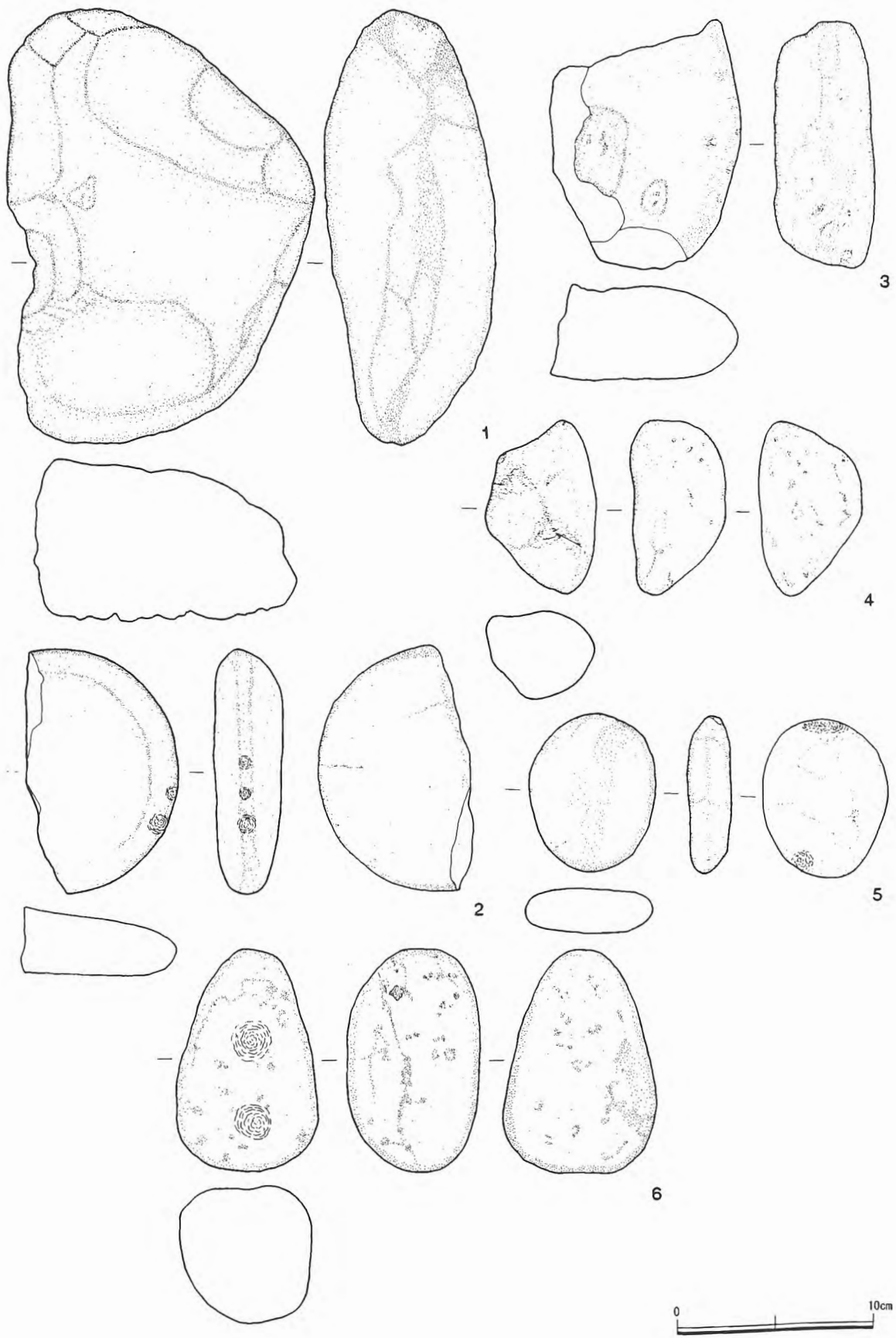


图 20 縄文時代A区 石器実測図(1)

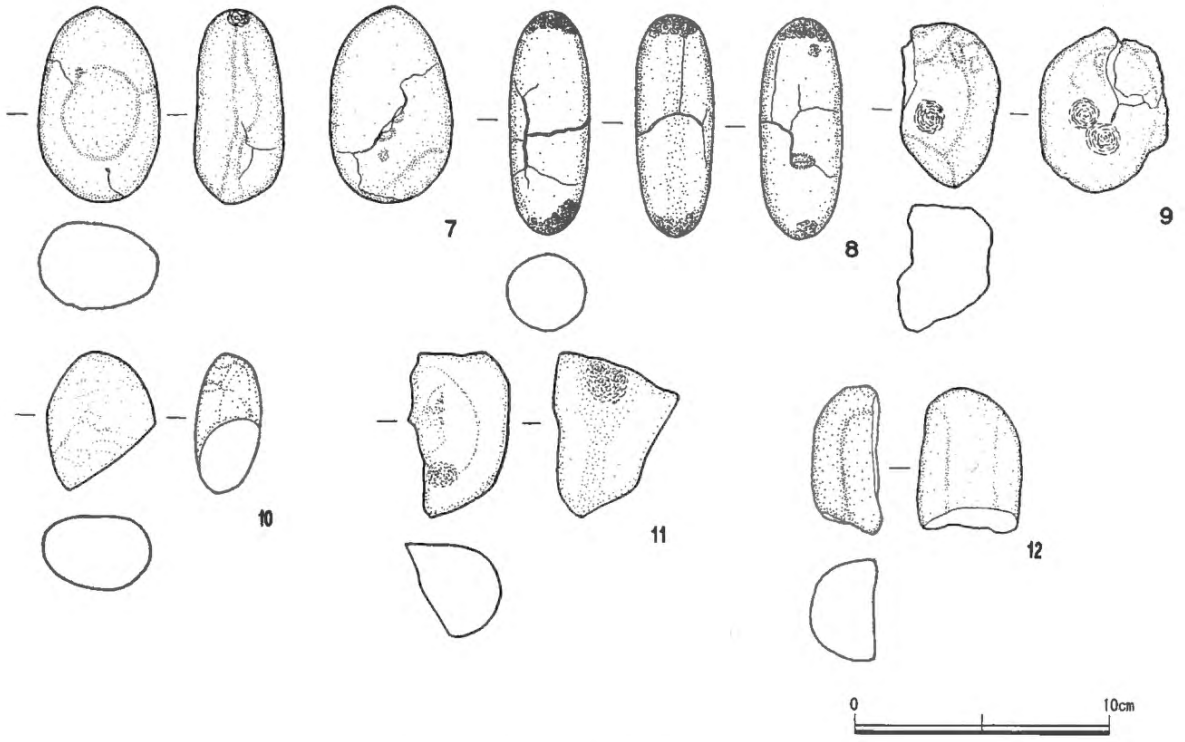


図 21 縄文時代A区 石器実測図(2)

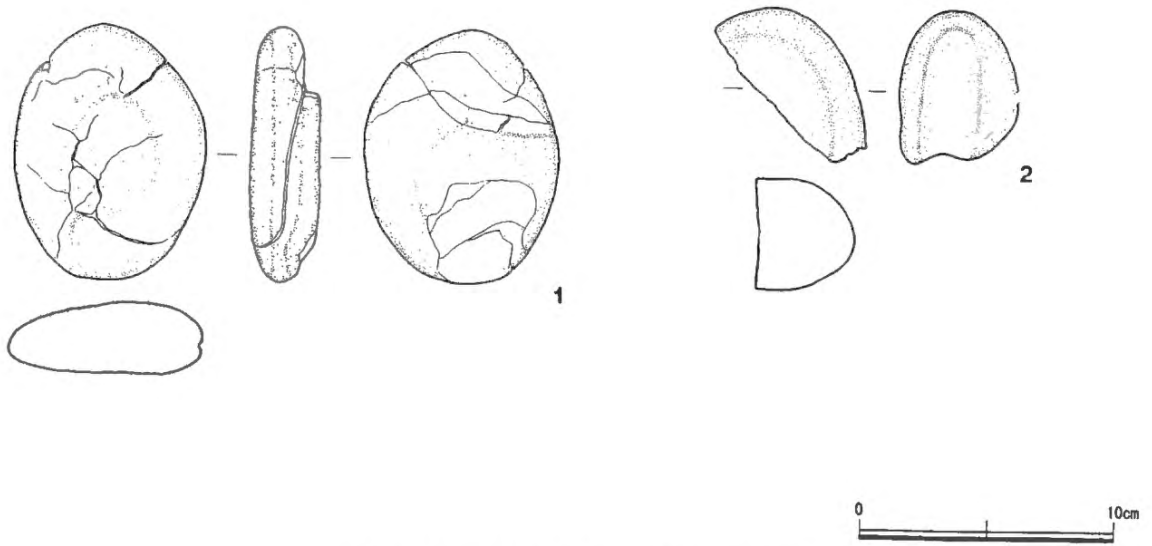


図 22 縄文時代B区 石器実測図

20号ピット

単独検出のため他の遺構との関わりは不明である。

(小金澤)

遺構名	位置		大きさ(m)			主軸方位 (長軸)	標高(m)	平面形態	断面形態	出土遺物 点数	備考
	区域	層序	長径	短径	深さ						
1号土坑	A区	11	0.89	0.43	0.45	N41° W	189.35	不整な長楕円形	上に開くU字形		
2号土坑	A区	11	0.75	0.38	0.25	N64° E	189.41	不整な長楕円形	舟底状		
3号土坑	A区	11	0.70	0.61	0.30	-	189.31	不整形	片テラス形		
4号土坑	A区	11	0.92	0.80	0.22	N10° E	189.34	不整形	U字形		
5号土坑	A区	11	0.90	0.38	0.18	N54° E	189.38	長楕円形	丸底状		
6号土坑	A区	11	0.94	0.41	0.16	N81° W	189.29	長楕円形	丸底状		

表2 縄文時代A区 土坑計測表

遺構名	位置		大きさ(m)			標高(m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	層序	長径	短径	深さ				
1号ピット	A区	11	0.31	(0.15)	0.13	189.34	-	U字形	1号柱穴列
2号ピット	A区	11	0.45	0.33	0.16	189.35	不整な楕円形	上に開くU字形	1号柱穴列
3号ピット	A区	11	(0.39)	0.34	0.18	189.36	不整形	丸底状	1号柱穴列
4号ピット	A区	11	0.34	0.32	0.06	189.34	不整形	浅い丸底状	1号柱穴列
5号ピット	A区	11	0.35	0.25	0.16	189.33	長楕円形	片テラス形	1号柱穴列
6号ピット	A区	11	0.36	0.31	0.24	189.40	楕円形	上に開くU字形	
7号ピット	A区	11	0.31	0.27	0.23	189.38	楕円形	片テラス形	
8号ピット	A区	11	0.31	0.29	0.14	189.24	楕円形	U字形	2号柱穴列
9号ピット	A区	11	0.37	0.33	0.18	189.31	楕円形	U字形	2号柱穴列
10号ピット	A区	11	0.43	0.31	0.17	189.31	長楕円形	U字形	2号柱穴列
11号ピット	B区	11	0.24	0.23	0.18	190.14	円形	U字形	3号柱穴列
12号ピット	B区	11	0.22	0.18	0.07	189.9	楕円形	上に開くU字形	3号柱穴列
13号ピット	B区	11	0.22	0.19	0.09	189.81	不整形	上に開くU字形	4号柱穴列
14号ピット	B区	11	0.28	0.28	0.1	189.94	不整な楕円形	上に開くU字形	4号柱穴列
15号ピット	C区	11	0.3	0.27	0.1	188.69	不整な楕円形	上に開くU字形	5号柱穴列
16号ピット	C区	11	0.27	0.24	0.06	188.77	不整形	皿状	5号柱穴列
17号ピット	C区	11	0.31	0.31	0.14	188.81	不整な楕円形	上に開くU字形	
18号ピット	C区	11	0.3	0.21	0.14	188.72	不整な楕円形	上に開くU字形	5号柱穴列
19号ピット	C区	11	0.53	0.39	0.14	188.76	長楕円形	上に開くU字形	5号柱穴列

表3 縄文時代A・B・C区 ピット・柱穴列計測表

遺構名	位置		大きさ(m)			主軸方位 (長軸)	標高(m)	平面形態	断面形態	出土遺物 点数	備考
	区域	層序	長径	短径	深さ						
7号土坑	D区	大沢スコリア層	0.60	0.60	0.15	-	188.20	円形	上に広く開くU字形	-	
8号土坑	D区	大沢スコリア層	1.07	0.97	0.07	-	188.16	円形	皿状	-	
9号土坑	D区	大沢スコリア層	1.06	(0.52)	0.12	-	188.17	-	皿状	-	
10号土坑	D区	大沢スコリア層	1.22	(0.63)	0.11	-	188.20	-	皿状	-	
11号土坑	D区	大沢スコリア層	0.59	0.52	0.06	N23° W	188.40	楕円形	皿状	-	

表4 弥生時代以降D区 土坑計測表

遺構名	位置		大きさ(m)			標高(m)	平面形態	断面形態	出土遺物 点数	備考
	区域	層序	長径	短径	深さ					
20号ピット	A区	11	0.26	0.2	0.38	189.95	不整な楕円形	U字形		

表5 弥生時代以降A区 ピット計測表

図版番号	出土地区	器種	石材	残存状況	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
20-1	A区	石皿	玄武岩	約1/2	22.1	(15.7)	7.6	3000
20-2	A区	石皿	砂岩	約1/2	12.5	(7.7)	3.3	424
20-3	A区	石皿	玄武岩	破片	(12.4)	(9.5)	4.7	841
20-4	A区	石皿・磨石	玄武岩	破片	(8.8)	(5.6)	4.5	272
20-5	A区	磨石・敲石	石英閃緑岩	完形	11.3	6.7	6.8	828
20-6	A区	磨石・敲石	礫岩	完形	8.1	6.3	2.3	181
21-7	A区	磨石・敲石	礫岩	完形	7.7	4.7	3.3	173
21-8	A区	磨石・敲石	砂岩	完形	8.7	3.1	3.0	115
21-9	A区	磨石・敲石	礫岩	破片	(6.5)	(5.0)	3.5	132
21-10	A区	磨石・敲石	砂岩	破片	(4.4)	4.3	2.9	82
21-11	A区	磨石・敲石	石英閃緑岩	破片	(6.5)	(3.9)	3.6	114
21-12	A区	磨石・敲石	石英閃緑岩	破片	(5.4)	(4.0)	2.5	88
22-1	B区	磨石・敲石	礫岩	ほぼ完形	10.0	7.6	2.8	254
22-2	B区	磨石・敲石	石英閃緑岩	約1/2	7.5	(3.3)	4.3	144

表6 縄文時代 石器観察表

(2)遺物

A区(図20・21、表6)

1は玄武岩の石皿で表面に磨り痕と凹みがある。2は砂岩の石皿で表裏両面に磨痕、側面に磨り痕・敲痕がある。3は玄武岩の石皿で表面に磨り痕と凹み、裏面に磨り痕がある。4は玄武岩の石皿から転用した磨石で表面・裏面に側面に磨り痕がある。

5は石英閃緑岩の磨石・敲石で表面と両側面に磨り痕、表面に敲痕がある。6は礫岩の磨石・敲石で全体に磨り痕、裏面に敲痕がある。7は礫岩の磨石・敲石で全体に磨り痕、被熱が認められる。8は砂岩の磨石・敲石で全体に磨り痕、上下両端に敲痕がある。9は砂岩の磨石・敲石で表面・裏面に磨り痕、側面に磨り痕・敲痕がある。10は砂岩の磨石・敲石で表面・側面に磨り痕、敲痕による凹みがある。11は石英閃緑岩の磨石・敲石で表裏両面、側面に磨り痕・敲痕がある。12は石英閃緑岩の磨石・敲石で全体に磨り痕がある。

B区(図22、表6)

1は礫岩の磨石・敲石で全体に磨り痕、表面に敲痕、被熱が認められる。2は石英閃緑岩の磨石・敲石で全体に磨り痕がある。

(小金澤)

5 まとめ

今回調査が行われた窪C遺跡は、平成14年度に実施され縄文時代草創期の定住化を示す10基を越す竪穴状遺構、石皿・磨石・尖頭器・石鎌等の石器や押圧縄文・隆起線文土器等が多く発見された大鹿窪遺跡が南側に隣接している。

地形的には約80,000～100,000年前に形成された古富士火山の西側裾部の末端にあたるため比較的緩やかに北から南・東から西へ標高を僅かずつ下げる平坦面を形成している。西側は芝川谷によって地形が区切られその谷に芝川が北から南へ流下している。

遺構としてはB区で検出された集石遺構、A区で検出された土坑群、A・B・C区で検出された柱穴列が主なもので、これらの遺構は第11層の明褐色土を確認面として検出された。この第11層は大鹿窪遺跡の調査では縄文時代早期より以前の草創期から旧石器時代の層に相当すると考えられる。特にA区で検出された柱穴列は集中しており規則性もみられることから住居状遺構に伴うものであることが推定される。

遺物としては石皿・石皿から転用された磨石・磨石等が出土したが、これらは縄文時代草創期の大鹿窪遺跡に相当するものであるが、時期を明瞭に特定できる土器や石器の出土はなかった。遺物の多くはA区柱穴列付近で出土したことから、この周辺が住居状遺構としての性格を有していたことの傍証となる。

遺構が検出された層は縄文時代早期よりも古い時期であることがまず指摘できる。遺物では磨られて凹が明瞭な石皿や石皿を転用した磨石があることから縄文時代の範疇であろうと推定されるが、縄文時代の最大の特徴である土器が伴っていないことが確実な時期特定にいたっていない。

神奈川県大和市ではナイフ形石器と尖頭器→石鎌と御子柴系尖頭器と無文土器→石鎌と隆起線文土器の組み合わせが下層から上層へと出土した。細石刃文化の終焉の頃に御子柴系石器に伴って土器が出現する例が多いことが指摘されている(西田康民1999)。3番目の石鎌と隆起線文土器の組み合わせは大鹿窪遺跡において微隆起線文土器と石鎌と小型有舌(茎)尖頭器との組み合わせがある。さらに押圧縄文土器の時期には石皿・磨石に尖頭器が伴って出土している。

以上から石皿・磨石の遺物から縄文時代草創期の押圧縄文時代以降～早期までの間であると一応の結論を示しておくにここでは留めることにするが今後に残された大きな課題である。

(小金澤)

引用・参考文献

個人論文等

- 池谷信之 1996a 「愛鷹・箱根山麓の縄文時代草創期」(『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 収録集』所収)
- 池谷信之 2001 「第二章 遺跡の環境」(『葛原沢第Ⅳ遺跡(a・b区)発掘調査報告書1』)
- 上杉陽 1996 「第5節 都留市小形山中中谷遺跡のテフラ層所」(『中谷遺跡』)
- 小野真一 1990 「小塚遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
- 栗野克美 1990 「南原遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
- 瀬川裕市郎 1990 「縄文時代 住居跡一覧」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
- 関野哲夫 1998 「東海地方の縄文時代初期の定住化」(『月刊 考古学ジャーナル 4』所収)
- 高尾好之 1981 「駿河小塚出土の舟底形石核」(『静岡県考古学研究 10』所収)
- 高橋豊 1995 「第1節 小塚遺跡(第3次調査)の地質柱状断面にみる火山灰層序と遺跡層準」(『小塚遺跡—金刺建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次調査報告書—』)
- 西田康民 1999 「土器の出現」(『縄文世界の一万年』所収)
- 土隆一 1995 「芝川町流域の地形・地質と水環境」(『芝川町芝川流域の水環境—芝川町地域開発環境配慮指針策定事業報告—』)
- 松本一男 1998 「静岡県内検出の縄文時代住居の時代的変遷と地域的特性について—住居を構成する属性から時代的変遷と地域性を探る—」(『静岡県考古学研究 No.30』所収)
- 由比将男 1995 「愛鷹火山と箱根火山の形成と愛鷹ローム層」(『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』)

書籍・報告書等

- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1982 『角川日本地名辞典 22 静岡』角川書店
- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編1 考古一』
- 静岡県 1992 『静岡県史 資料編3 考古三』
- 芝川町教育委員会 1972 『駿河小塚』
- 芝川町教育委員会 1981 『(駿河)小塚遺跡第2次調査報告書』
- 芝川町教育委員会 1985 『芝川町の文化財』
- 芝川町教育委員会 1995 『小塚遺跡—金刺建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次調査報告書—』
- 芝川町教育委員会 1995 『小塚遺跡—個人住宅建設に伴う埋蔵文化財第5次発掘調査報告書—』
- 芝川町教育委員会 2003 『大鹿窪遺跡 窪B遺跡—県営中山間地域総合整備事業柚野の里地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—(遺構編)』
- 富士宮市教育委員会 1993 『富士宮市の遺跡—富士宮市遺跡詳細分布報告書—』
- 山梨県 1999 「1 年代・層位」(『山梨県史 資料編2 原始・古代2』)

報告書抄録

ふりがな	くぼしーいせき		
書名	窪C遺跡		
副書名	宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ名		シリーズ番号	
編著者名	小金澤保雄 小谷亮二 保竹貴幸		
編集機関	静岡県富士郡芝川町教育委員会		
所在地	静岡県富士郡芝川町長貫1211-1 TEL 0544(65)0402		
発行年月日	西暦2004年3月22日		

所収遺跡名	所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 遺跡番号	北緯 東経			
くぼしーいせき 窪C遺跡	静岡県富士郡 芝川町大鹿窪 字窪	22316	35°15'05"	2003年 12月9日～ 2004年 3月22日	315	宅地造成事業
		44	138°33'28"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
窪C遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代以降	集石遺構 土坑 柱穴列	石皿 磨石	

写真図版

写真1 A区 北壁 土層断面



写真2 B区 西壁 土層断面

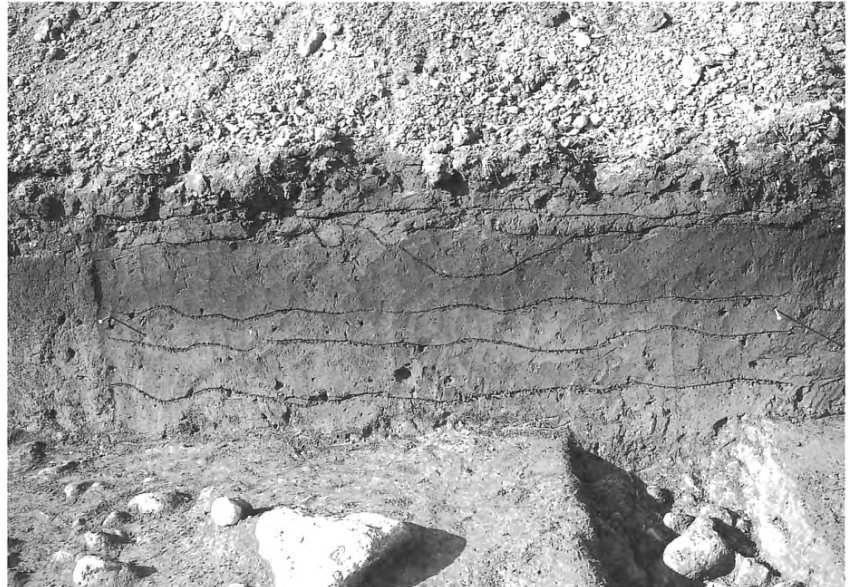


写真3 C区 北壁 土層断面



写真4 D区 北壁 土層断面



写真5 B区 縄文時代
1号集石遺構



写真6 B区 縄文時代
下層の礫層
検出状況



写真7 A区 縄文時代
遺物出土状況
・土坑検出状況



写真8 A区 縄文時代
2号ピット土層断面



写真9 A区 縄文時代
5号ピット土層断面

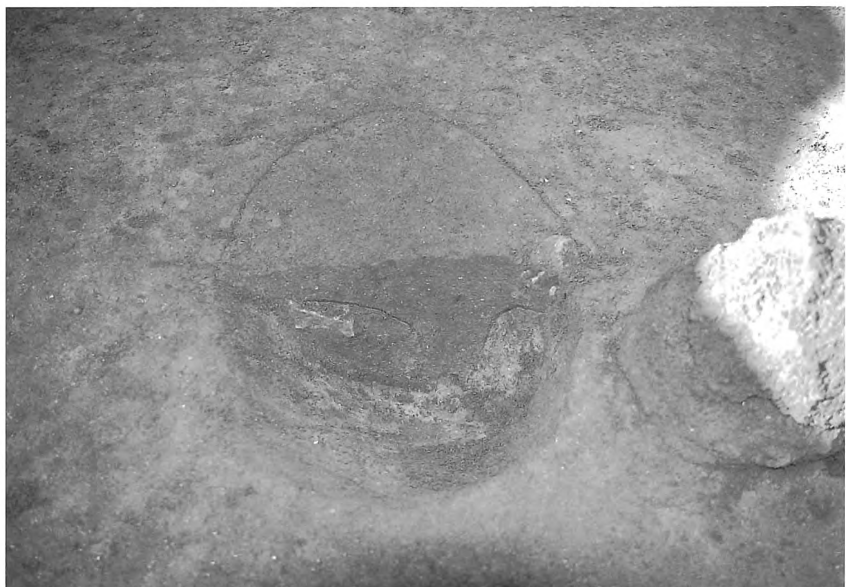


写真10 A区 縄文時代
土坑完掘状況



写真11 B区 縄文時代
遺構検出状況

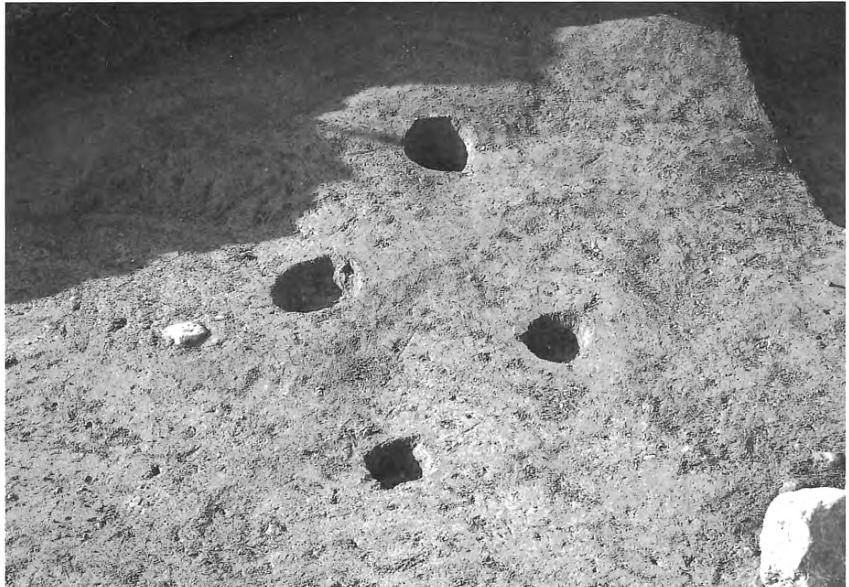


写真12 C区 縄文時代
遺構検出状況



写真13 D区 弥生時代以降
遺構検出状況



写真14 A区 弥生時代以降
遺構検出状況



写真15 A区 完掘状況



写真16 B区 完掘状況



写真17 C区 完掘状況



写真18 D区 完掘状況



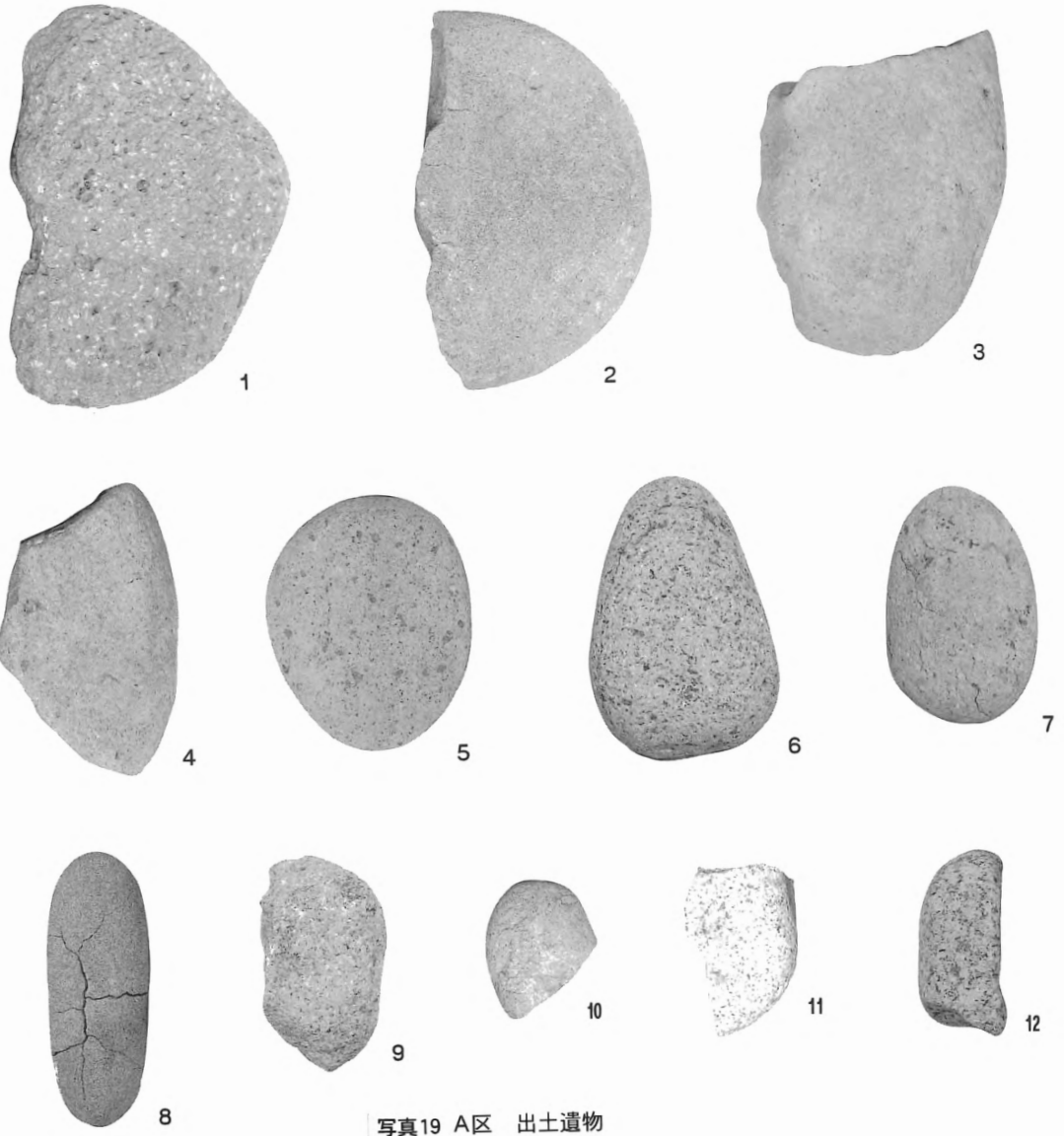


写真19 A区 出土遺物

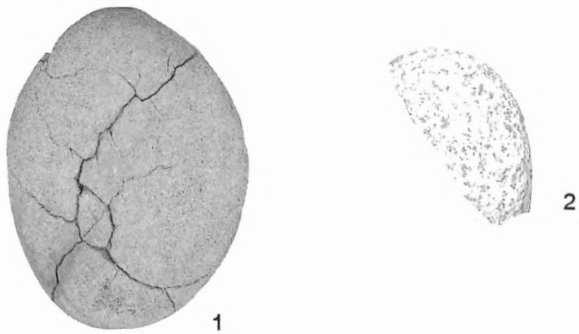


写真20 B区 出土遺物

窪 C 遺 跡

— 宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成16年3月22日 発行

編集・発行 芝川町教育委員会
〒419-0315
静岡県富士郡芝川町長貫1211-1
TEL (0544) 65-0402
印 刷 アサダ印刷株式会社